

お台場旧防波堤（2島）における鳥類のモニタリング調査 冬季調査（1月）報告書

2026年2月 （株）一般社団法人 お台場海づくり協議会

1. 調査目的

本調査は、お台場海浜公園内旧防波堤において鳥類の利用状況や経年変化を把握し、鳥類の生息環境保全について検討するための基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査対象地域

旧防波堤2島及び周辺水域（周辺50m程度）

3. 調査期日等

調査期日等を表1に示す。

表1 調査期日等

調査期日	調査時間	天候
令和8年1月13日(火)	8:00~13:00 ^{注1}	晴れ

注1. 調査時間は8:00~14:00を予定していたが、強風のため、安全面を考慮し、13:00に終了した。

4. 調査方法

各調査項目において、倍率8~10倍程度の双眼鏡や倍率20~60倍程度の望遠鏡等を必要に応じて使い分けながら調査を実施した。また、(2)~(4)の調査については、調査精度と定量性を確保するため、2島に調査員を1名ずつ配置し、2島同時に実施した。また、補足調査として(5)の調査を実施した。

(1) 船上センサス

2島の50m程度沖を船舶により定速で周回しながら、2島及び周辺を観察し、目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。

(2) ラインセンサス

2島の岸沿いを縦断するセンサスルートを設定し、時速1~2km程度の速度で歩きながら目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。センサスルートを各島に1本設定し、観察範囲を片側50m（両側100m）とした。

(3) 定点観察調査

2島の眺望のよい地点に定点を2点ずつ設定し、目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。観察半径は50m程度、調査時間は各30分間とした。

(4) 任意観察調査

2島の全域を任意に踏査し、目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。

(5) その他

● 自動撮影カメラによる調査

第5回秋季調査（※調査回の定義については後述）においてホンダタヌキのため糞が確認されたことから、島内に生息する生き物の情報を補完するため、同回の冬季調査から自動撮影カメラを西島に1台設置した。なお、本調査で回収したデータの撮影期間は、84日間であった（第11回秋季調査～第11回冬季調査）。撮影記録は令和8年1月6日以降確認できなかった。データ回収時、自動撮影カメラのレンズ及び赤外線検知部にカワウの糞が付着していたことから、正常に作動しなかった可能性がある。

● その他の生き物の記録

鳥類調査時に特記すべき生き物が確認された場合は、種名、個体数、行動等を記録した。



船上センサス



ラインセンサス



定点観察調査



任意観察調査



自動撮影カメラによる調査

エラー！ 参照元が見つかりません。 各調査手法における調査風景

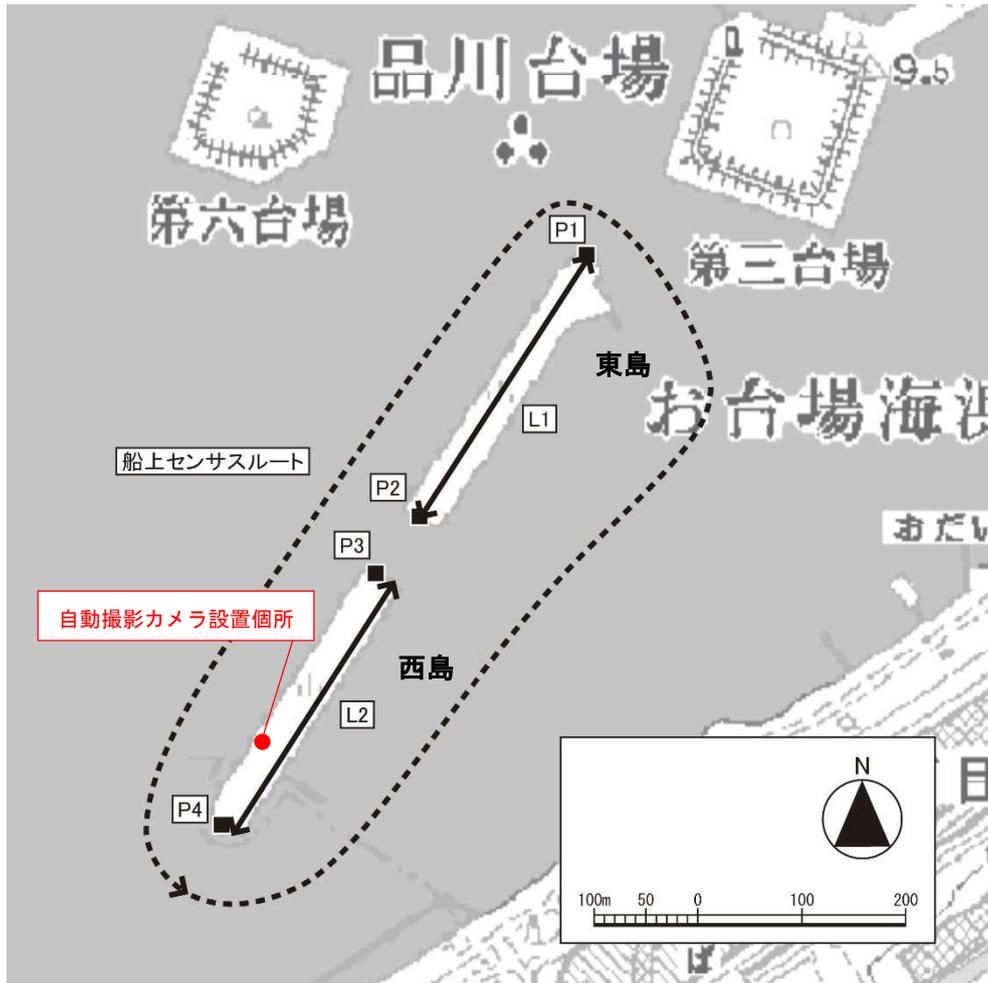


図 1 調査地点

5. 評価方法

(1) 調査回の定義

各調査結果をとりまとめ、過去の調査と比較をすることで、今回の調査結果を評価した。調査回の定義を表 2 に示す。今回は第 11 回の冬季調査にあたる。

表 2 調査回の定義

調査回	調査時期	調査回	調査時期
第 1 回	平成 27 年夏季～平成 28 年春季	第 7 回	令和 3 年秋季～令和 4 年夏季
第 2 回	平成 28 年秋季～平成 29 年夏季	第 8 回	令和 4 年秋季～令和 5 年夏季
第 3 回	平成 29 年秋季～平成 30 年夏季	第 9 回	令和 5 年秋季～令和 6 年夏季
第 4 回	平成 30 年秋季～令和元年夏季	第 10 回	令和 6 年秋季～令和 7 年夏季
第 5 回	令和元年秋季～令和 2 年夏季	第 11 回	令和 7 年秋季～令和 8 年夏季
第 6 回	令和 2 年秋季～令和 3 年夏季		

(2) 重要種の選定根拠

重要種の選定根拠を表 3 に示す。いずれかに該当する種を重要種として記録した。

表 3 重要種の選定根拠

No.	選定資料	カテゴリー
①	「文化財保護法」(昭和 25 年、法律第 214 号)	特天: 特別天然記念物 天 : 天然記念物
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年、法律第 75 号)※以下、種の保存法と記す	国内: 国内希少野生動植物種 国際: 国際希少野生動植物種
③	「環境省レッドリスト 2020 鳥類」(令和 2 年、環境省) ※以下、環境省 RL と記す	EX: 絶滅 EW: 野生絶滅 CR+EN: 絶滅危惧 I 類 CR: 絶滅危惧 I A 類 EN: 絶滅危惧 I B 類 VU: 絶滅危惧 II 類 NT: 準絶滅危惧 DD: 情報不足 LP: 絶滅のおそれのある地域個体群
④	「東京都レッドデータブック 2023(本土部)」 東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)解説版 (令和 5 年、東京都)における区部の掲載種 ※以下、東京都 RL と記す	EX: 絶滅 EW: 野生絶滅 CR+EN: 絶滅危惧 I 類 CR: 絶滅危惧 I A 類 EN: 絶滅危惧 I B 類 VU: 絶滅危惧 II 類 NT: 準絶滅危惧 DD: 情報不足 LP: 絶滅のおそれのある地域個体群 * : 留意種 *①: 準絶滅危惧(NT)に準ずる。 *②: 人為的な環境配慮により個体群が維持されている。

6. 調査結果

(1) 現地調査結果

鳥類確認種目録を中型鳥類と推定される獲物を捕獲したオオタカ幼鳥 1 個体が撮影された。現地調査においても本種が確認されていることから、本島及びその周辺を採食地として利用していると考えられる。

コミミズク 1 個体（東京都 RL : CR）が撮影された。本種は、調査開始以来、両島における初記録種である。また、撮影記録が 1 日のみであることから、西島に一時的に飛来したと考えられる。

表 4、船上センサス結果を表 5、ラインセンサス結果を表 6、定点観察結果を表 7 に示す。

- 現地調査の結果、9 目 19 科 30 種が確認された（中型鳥類と推定される獲物を捕獲したオオタカ幼鳥 1 個体が撮影された。現地調査においても本種が確認されていることから、本島及びその周辺を採食地として利用していると考えられる。
- コミズク 1 個体（東京都 RL : CR）が撮影された。本種は、調査開始以来、両島における初記録種である。また、撮影記録が 1 日のみであることから、西島に一時的に飛来したと考えられる。

- 表 4)。
- 確認種の約 6 割が水域及びその周辺に生息する種であり、17 種（マガモやユリカモメ、ミサゴ等）が確認された。島内では、森林及びその周辺に生息する種として 8 種（ノスリやジョウビタキ、アオジ等）が確認されたほか、都市部で見られる種として 2 種（ムクドリ及びスズメ）、様々な環境で見られる種として 3 種（キジバト、トビ及びハシブトガラス）が確認された（中型鳥類と推定される獲物を捕獲したオオタカ幼鳥 1 個体が撮影された。現地調査においても本種が確認されていることから、本島及びその周辺を採食地として利用していると考えられる。
- コミミズク 1 個体（東京都 RL : CR）が撮影された。本種は、調査開始以来、両島における初記録種である。また、撮影記録が 1 日のみであることから、西島に一時的に飛来したと考えられる。

- 表 4)。
- 当該地域における渡り区分別にみると、冬鳥（旧防波堤で冬に見られる種）の確認種数が最も多く、16 種（カンムリカイツブリやノスリ、ツグミ等）が確認された。次いで、留鳥（旧防波堤で一年中見られる種）が 14 種（カルガモやトビ、ハクセキレイ等）確認された（中型鳥類と推定される獲物を捕獲したオオタカ幼鳥 1 個体が撮影された。現地調査においても本種が確認されていることから、本島及びその周辺を採食地として利用していると考えられる。
- コミズク 1 個体（東京都 RL : CR）が撮影された。本種は、調査開始以来、両島における初記録種である。また、撮影記録が 1 日のみであることから、西島に一時的に飛来したと考えられる。

- 表 4)。
- 重要種は、ホシハジロ、スズガモ、ウミアイサ、オオバン、カンムリカイツブリ、イソシギ、ウミネコ、ミサゴ、オオタカ、トビ及びびノスリの合計 11 種が確認された（中型鳥類と推定される獲物を捕獲したオオタカ幼鳥 1 個体が撮影された。現地調査においても本種が確認されていることから、本島及びその周辺を採食地として利用していると考えられる。
- コミミズク 1 個体（東京都 RL : CR）が撮影された。本種は、調査開始以来、両島における初記録種である。また、撮影記録が 1 日のみであることから、西島に一時的に飛来したと考えられる。

- 表 4)。島内では、護岸及び砂礫地で採餌するイソシギ、広葉樹林にとまるノスリが確認された。島外では、海域で採餌や遊泳するホシハジロ、スズガモ、ウミアイサ、オオバン及びカンムリカイツブリのほか、飛翔やハンティングするミサゴが確認された。また、島内外では、上空及び海域を飛翔するウミネコや広葉樹林内及び海域を飛翔するオオタカ、広葉樹林にとまり、上空及び海域を飛翔するトビが確認された。
- 外来種は確認されなかった(中型鳥類と推定される獲物を捕獲したオオタカ幼鳥 1 個体が撮影された。現地調査においても本種が確認されていることから、本島及びその周辺を採食地として利用していると考えられる。
- コミミズク 1 個体 (東京都 RL : CR) が撮影された。本種は、調査開始以来、両島における初記録種である。また、撮影記録が 1 日のみであることから、西島に一時的に飛来したと考えられる。

- 表 4)。
- 確認個体数が最も多かった種は、カワウであった。船上センサスでは、両島で合計 335 個体 (表 5)、ラインセンサスでは、両島で合計 347 個体が確認され、優占度は東島で 94%、西島で 93%と両島において最も高い値を示した (表 6)。また、定点観察調査では、両島で合計 503 個体が確認され、優占度は各地点で 44~84%と全体的に高い値を示した (表 7)。両島の上空や海域を通過する個体のほか、広葉樹林内にとまる個体も多く観察された。
- カワウに次いで確認個体数が多かった種は、スズガモであった。船上センサスにおいて、西島で 221 個体 (表 5) が確認された。西島東側の波が低く穏やかな海域において、休息または遊泳する個体が多く確認された。
- 各調査手法のうち、確認個体数が比較的多かった種は、ユリカモメ、アオサギ、トビ及びヒヨドリであった。ユリカモメは、定点観察調査において東島で 11 個体、西島で 15 個体が確認され (表 7)、両島付近の海域を飛翔する個体が多く観察された。アオサギは、船上センサスにおいて両島で 18 個体が確認され (表 5)、東島の護岸で休息する個体が多く観察された。トビは、定点観察調査において両島で合計 43 個体が確認され (表 7)、上空や両島付近の海域を飛翔する個体が多く観察された。ヒヨドリは、船上センサスにおいて両島で合計 33 個体 (表 5)、定点観察調査において両島で合計 47 個体が確認され (表 6)、両島の広葉樹林にとまる個体のほか、海域及び上空を通過する個体が特に多かった。両島でそれぞれ群れが確認され、これらの群れの存在が確認個体数の増加に寄与したものと考えられる。

(2) 過去調査との比較

それぞれの前回調査との比較について、表 8 に確認種、表 9 に船上センサス結果、表 10 にラインセンサス結果、表 11 に定点観察結果、表 12 にこれまでの鳥類確認種目録を示す。

- 第 10 回 (前回調査) と第 11 回 (今回調査) の確認種数は、第 10 回では東島で 23 種、西島で 22 種の合計 27 種、第 11 回では東島で 24 種、西島で 23 種の合計 30 種であった (表 8)。両回で共通して確認された種は 23 種であり、第 10 回の確認種全体の 8 割以上を占めた。第 11 回では、第 10 回と比較して留鳥の確認種数がやや増加した結果となった。
- 第 10 回では確認されず、第 11 回で確認された種は、マガモ、ウミネコ、ミサゴ、オオタカ、ムクドリ、ツグミ及びスズメの 7 種であった (表 8)。マガモは、これまで秋季や冬季に不定期に確認されており、今回の記録は第 4 回冬季以来、7 年ぶりである。ミサゴは、これまで冬季の記録が少なく、今回の記録は第 3 回以来 3 例目となる。オオタカについても冬季の記録は少なく、今回の記録は第 4 回以来 4 例目となる。ウミネコ、ムクドリ、ツグミ及びスズメは、比較的記録の多い種である。

冬季の記録はいずれも第9回以来であり、第10回では一時的に確認されなかったと考えられる。

- 第10回で確認され、第11回では確認されなかった種は、カイツブリ、ハジロカイツブリ、ハヤブサ及びウグイスの4種であった(表8)。冬鳥のカイツブリは、これまで冬季調査では第9回及び第10回の2例のみの記録であり、冬季の記録数が少ないことから、第11回では確認されなかったと考えられる。冬鳥のハジロカイツブリ及びウグイスは、いずれも冬季において比較的記録が多い種であるため、第11回で確認されなかったのは一時的なものと考えられる。留鳥のハヤブサは、これまで冬季調査では第4回及び第10回の2例のみの記録であり、冬季の記録数が少ないことから、第11回では確認されなかったと考えられる。
- 第10回より第11回で個体数が増加した種は、スズガモ及びカワウであった(表9、表10、表11)。スズガモは、両島周辺の海域を移動しながら採餌や休息を行うため、日ごとの確認個体数の変動が大きい。このため、第11回では個体数が増加したと考えられる。カワウは、両島を繁殖地として利用しており、営巣数は第10回が東島164巣、西島71巣であったのに対し、第11回は東島178巣、西島173巣であった。営巣数の合計は第10回の235巣から第11回は351巣となり、前年より116巣増加した。これまでも両島を繁殖地として利用していた個体に加え、周辺に生息する個体も新たに両島を繁殖地として利用し始めた可能性があり、その結果、個体数及び営巣数が増加したものと推測される。
- 第10回より第11回で個体数が減少した種は、ヒヨドリであった(表10、表11)。ヒヨドリは、第10回では両島において広葉樹林にとまる個体や飛翔する個体が多く確認された。一方、第11回では強風(最大瞬間風速24.2m/s)の影響により、調査日における周辺地域からの飛来個体数が減少したものと考えられる(気象庁公式ホームページ 2026年2月10日閲覧)。

(1) その他

自動撮影カメラによる調査の記録を整理した結果、鳥類6目9科10種、哺乳類2目2科2種が確認された。

- 自動撮影カメラの画像を解析した結果、鳥類ではキジバト、カワウ、アオサギ、オオタカ、トビ、コミミズク、ハシブトガラス、ヒヨドリ、ジョウビタキ及びハクセキレイの10種、哺乳類ではクマネズミ属の一種及びアライグマの2種が確認された。
- 中型鳥類と推定される獲物を捕獲したオオタカ幼鳥1個体が撮影された。現地調査においても本種が確認されていることから、本島及びその周辺を採食地として利用していると考えられる。

- コミミズク 1 個体（東京都 RL : CR）が撮影された。本種は、調査開始以来、両島における初記録種である。また、撮影記録が 1 日のみであることから、西島に一時的に飛来したと考えられる。

表 4 鳥類確認種目録

No.	目名	科名	種名	渡り区分	調査時期		重要種選定基準			
					冬季(1月)		①	②	③	④
					東島	西島				
1	カモ	カモ	カルガモ	留鳥	○					
2			マガモ	冬鳥		○				
3			コガモ	冬鳥	○	○				
4			ホシハジロ	冬鳥	○	○				VU
5			スズガモ	冬鳥	○	○				*②
6			ウミアイサ	冬鳥		○				DD
7	ハト	ハト	キジバト	留鳥		○				
8	ツル	クイナ	オオバン	冬鳥	○	○			CR	
9	カイツブリ	カイツブリ	カンムリカイツブリ	冬鳥	○	○			*②	
10	チドリ	シギ	イソシギ	留鳥	○	○			VU	
11		カモメ	ユリカモメ	冬鳥	○	○				
12			ウミネコ	留鳥		○			*①	
13			セグロカモメ	冬鳥	○	○				
14	カツオドリ	ウ	ウミウ	冬鳥	○					
15			カワウ	留鳥	○	○				
16	ペリカン	サギ	アオサギ	留鳥	○	○				
17	タカ	ミサゴ	ミサゴ	冬鳥		○		NT	EN	
18		タカ	オオタカ	留鳥		○		NT	EN	
19			トビ	留鳥	○	○			NT	
20			ノスリ	冬鳥	○				CR	
21	スズメ	カラス	ハシブトガラス	留鳥	○	○				
22		シジュウカラ	シジュウカラ	留鳥	○	○				
23		ヒヨドリ	ヒヨドリ	留鳥	○	○				
24		ムクドリ	ムクドリ	留鳥	○					
25		ツグミ	ツグミ	冬鳥	○	○				
26		ヒタキ	ジョウビタキ	冬鳥	○					
27		スズメ	スズメ	留鳥	○					
28		セキレイ	ハクセキレイ	留鳥	○	○				
29			タヒバリ	冬鳥	○	○				
30			ホオジロ	アオジ	冬鳥	○				
合計	9 目	19 科	30 種	-	24 種	23 種	0 種	0 種	2 種	11 種

注 1.分類、配列などは原則として「日本鳥類目録 改訂第 8 版」(令和 6 年、日本鳥学会)に準拠した。

注 2.重要種選定基準は表 3 に従った。

表 5 船上センサス結果

No.	目名	科名	種名	調査時期		合計 個体数	
				冬季(1月)			
				東島	西島		
1	カモ	カモ	マガモ	0	1	1	
2			コガモ	0	4	4	
3			ホシハジロ	0	9	9	
4			スズガモ	0	221	221	
5	ツル	クイナ	オオバン	0	5	5	
6	チドリ	シギ	イソシギ	1	2	3	
7		カモメ	ユリカモメ	1	0	1	
8	カツオドリ	ウ	ウミウ	1	0	1	
9			カワウ	185	150	335	
10	ペリカン	サギ	アオサギ	17	1	18	
11	タカ	タカ	トビ	7	4	11	
12			ノスリ	1	0	1	
13	スズメ	カラス	ハシブトガラス	1	2	3	
14		ヒヨドリ	ヒヨドリ	32	1	33	
15		スズメ	スズメ	1	0	1	
16		セキレイ	セキレイ	ハクセキレイ	2	3	5
17				タヒバリ	0	1	1
合計	7 目	11 科	17 種	11 種	13 種	17 種	

注 1. 分類、配列などは原則として「日本鳥類目録 改訂第 8 版」(令和 6 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 6 ラインセンサス結果

No.	目名	科名	種名	調査時期				合計 個体数	
				冬季(1月)					
				L1(東島)		L2(西島)			
				個体数	優占度	個体数	優占度		
1	チドリ	シギ	イソシギ	1	0%	0	0%	1	
2		カモメ	セグロカモメ	1	0%	0	0%	1	
3	カツオドリ	ウ	カワウ	197	94%	150	93%	347	
4	ペリカン	サギ	アオサギ	0	0%	2	1%	2	
5	タカ	タカ	オオタカ	0	0%	1	1%	1	
6			トビ	3	1%	0	0%	3	
7	スズメ	カラス	ハシブトガラス	1	0%	2	1%	3	
8		シジュウカラ	シジュウカラ	2	1%	0	0%	2	
9		ヒヨドリ	ヒヨドリ	2	1%	1	1%	3	
10		ツグミ	ツグミ	1	0%	4	2%	5	
11		セキレイ	セキレイ	ハクセキレイ	1	0%	1	1%	2
12				タヒバリ	1	0%	0	0%	1
合計	5 目	10 科	12 種	210	100%	161	100%	371	
				10 種	7 種	12 種			

注 1. 分類、配列などは原則として「日本鳥類目録 改訂第 8 版」(令和 6 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 7 定点観察結果

No.	目名	科名	種名	調査時期								合計 個体 数
				冬季(1月)								
				東島				西島				
				P1		P2		P3		P4		
				個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度	
1	カモ	カモ	カルガモ	2	1%	0	0%	0	0%	0	0%	2
2			コガモ	0	0%	1	1%	0	0%	0	0%	1
3			ホシハジロ	0	0%	8	5%	0	0%	0	0%	8
4	ツル	クイナ	オオバン	8	3%	1	1%	0	0%	0	0%	9
5	カイツブリ	カイツブリ	カンムリカイツブリ	1	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1
6	チドリ	シギ	イソシギ	1	0%	1	1%	0	0%	1	1%	3
7		カモメ	ユリカモメ	6	2%	5	3%	12	8%	3	4%	26
8	カツオドリ	ウ	ウミウ	1	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1
9			カワウ	232	84%	147	84%	94	65%	30	44%	503
10	ペリカン	サギ	アオサギ	1	0%	3	2%	2	1%	0	0%	6
11	タカ	ミサゴ	ミサゴ	0	0%	0	0%	0	0%	2	3%	2
12		タカ	トビ	7	3%	4	2%	30	21%	2	3%	43
13	スズメ	カラス	ハシブトガラス	2	1%	5	3%	0	0%	0	0%	7
14		シジュウカラ	シジュウカラ	0	0%	0	0%	1	1%	0	0%	1
15		ヒヨドリ	ヒヨドリ	13	5%	0	0%	4	3%	30	44%	47
16		ツグミ	ツグミ	0	0%	0	0%	1	1%	0	0%	1
17		ヒタキ	ジョウビタキ	1	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1
18		セキレイ	ハクセキレイ	1	0%	1	1%	1	1%	0	0%	3
19			タヒバリ	1	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1
合計	8 目	15 科	19 種	277	100%	176	100%	145	100%	68	100%	666
				14 種	10 種	8 種	6 種	19 種				

注 1. 分類、配列などは原則として「日本鳥類目録 改訂第 8 版」(令和 6 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 8 前回調査結果との比較：確認種

No.	種名	調査時期			
		冬季(1月)			
		第10回(R6~R7)		第11回(R7~R8)	
		東島	西島	東島	西島
1	カルガモ	○	○	○	
2	マガモ				○
3	コガモ	○	○	○	○
4	ホシハジロ	○		○	○
5	スズガモ	○	○	○	○
6	ウミアイサ	○	○		○
7	キジバト		○		○
8	オオバン	○	○	○	○
9	カイツブリ	○			
10	カンムリカイツブリ	○	○	○	○
11	ハジロカイツブリ	○			
12	イソシギ	○	○	○	○
13	ユリカモメ	○	○	○	○
14	ウミネコ				○
15	セグロカモメ	○	○	○	○
16	ウミウ		○	○	
17	カワウ	○	○	○	○
18	アオサギ	○	○	○	○
19	ミサゴ				○
20	オオタカ				○
21	トビ	○	○	○	○
22	ノスリ	○		○	
23	ハヤブサ		○		
24	ハシブトガラス	○	○	○	○
25	シジュウカラ	○	○	○	○
26	ヒヨドリ	○	○	○	○
27	ウグイス		○		
28	ムクドリ			○	
29	ツグミ			○	○
30	ジョウビタキ	○	○	○	
31	スズメ			○	
32	ハクセキレイ	○	○	○	○
33	タヒバリ	○	○	○	○
34	アオジ	○		○	
合計	34 種	23 種	22 種	24 種	23 種
		27 種		30 種	

表 9 前回調査との比較：船上センサス結果

No.	種名	調査時期			
		冬季(1月)			
		第10回(R6~R7)		第11回(R7~R8)	
		東島	西島	東島	西島
1	マガモ	0	0	0	1
2	コガモ	0	4	0	4
3	ホシハジロ	5	0	0	9
4	スズガモ	130	57	0	221
5	ウミアイサ	1	0	0	0
6	オオバン	4	0	0	5
7	カイツブリ	2	0	0	0
8	カンムリカイツブリ	4	4	0	0
9	イソシギ	5	7	1	2
10	ユリカモメ	2	0	1	0
11	セグロカモメ	1	0	0	0
12	ウミウ	0	0	1	0
13	カワウ	128	173	185	150
14	アオサギ	4	1	17	1
15	トビ	1	4	7	4
16	ノスリ	0	0	1	0
17	ハシブトガラス	2	2	1	2
18	シジュウカラ	0	2	0	0
19	ヒヨドリ	2	2	32	1
20	スズメ	0	0	1	0
21	ハクセキレイ	0	3	2	3
22	タヒバリ	0	0	0	1
23	アオジ	2	0	0	0
合計個体数		293	259	249	404
合計島別種数		15種	11種	11種	13種
合計種数		18種		17種	

表 10 前回調査との比較：ラインセンサス結果

No.	種名	調査時期							
		冬季(1月)							
		第10回(R6~R7)				第11回(R7~R8)			
		L1(東島)		L2(西島)		L1(東島)		L2(西島)	
		個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度
1	イソシギ	0	0%	1	1%	1	0%	0	0%
2	セグロカモメ	0	0%	0	0%	1	0%	0	0%
3	カワウ	85	89%	103	75%	197	94%	150	93%
4	アオサギ	0	0%	1	1%	0	0%	2	1%
5	オオタカ	0	0%	0	0%	0	0%	1	1%
6	トビ	0	0%	3	2%	3	1%	0	0%
7	ハシブトガラス	2	2%	2	1%	1	0%	2	1%
8	シジュウカラ	0	0%	3	2%	2	1%	0	0%
9	ヒヨドリ	4	4%	22	16%	2	1%	1	1%
10	ウグイス	0	0%	2	1%	0	0%	0	0%
11	ツグミ	0	0%	0	0%	1	0%	4	2%
12	ジョウビタキ	1	1%	1	1%	0	0%	0	0%
13	ハクセキレイ	1	1%	0	0%	1	0%	1	1%
14	タヒバリ	0	0%	0	0%	1	0%	0	0%
15	アオジ	2	2%	0	0%	0	0%	0	0%
合計	15種	95	100%	138	100%	210	100%	161	100%
		6種		9種		10種		7種	

表 11 前回調査との比較：定点観察結果

No.	種名	調査時期															
		冬季(1月)															
		第10回(R6~R7)								第11回(R7~R8)							
		東島				西島				東島				西島			
		P1		P2		P3		P4		P1		P2		P3		P4	
個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度		
1	カルガモ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	1%	0	0%	0	0%	0	0%
2	コガモ	0	0%	4	8%	0	0%	0	0%	0	0%	1	1%	0	0%	0	0%
3	ホシハジロ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	8	5%	0	0%	0	0%
4	ズガモ	3	6%	0	0%	0	0%	1	1%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
5	ウミアイサ	2	4%	1	2%	2	1%	1	1%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
6	キジバト	0	0%	0	0%	2	1%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
7	オオバン	0	0%	0	0%	0	0%	1	1%	8	3%	1	1%	0	0%	0	0%
8	カンムリカイツブリ	0	0%	1	2%	0	0%	4	2%	1	0%	0	0%	0	0%	0	0%
9	イソシギ	2	4%	3	6%	1	1%	0	0%	1	0%	1	1%	0	0%	1	1%
10	ユリカモメ	1	2%	2	4%	6	4%	23	14%	6	2%	5	3%	12	8%	3	4%
11	セグロカモメ	2	4%	1	2%	2	1%	3	2%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
12	ウミウ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	0%	0	0%	0	0%	0	0%
13	カワウ	28	60%	26	49%	104	71%	48	29%	232	84%	147	84%	94	65%	30	44%
14	アオサギ	0	0%	0	0%	0	0%	1	1%	1	0%	3	2%	2	1%	0	0%
15	ミサゴ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	3%
16	トビ	1	2%	4	8%	20	14%	5	3%	7	3%	4	2%	30	21%	2	3%
17	ハシブトガラス	1	2%	2	4%	2	1%	0	0%	2	1%	5	3%	0	0%	0	0%
18	シジュウカラ	0	0%	2	4%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	1%	0	0%
19	ヒヨドリ	4	9%	7	13%	6	4%	76	46%	13	5%	0	0%	4	3%	30	44%
20	ツグミ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	1%	0	0%
21	ジョウビタキ	0	0%	0	0%	0	0%	1	1%	1	0%	0	0%	0	0%	0	0%
22	ハクセキレイ	2	4%	0	0%	1	1%	0	0%	1	0%	1	1%	1	1%	0	0%
23	タヒバリ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	0%	0	0%	0	0%	0	0%
24	アオジ	1	2%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
合計	24種	47	100%	53	100%	146	100%	164	100%	277	100%	176	100%	145	100%	68	100%
		11種		11種		10種		11種		14種		10種		8種		6種	

表 12 (1) 鳥類確認種目録 (第 1 回～第 6 回)

No.	種名	調査時期											
		第 1 回 (H27 夏～ H28 春)		第 2 回 (H28 秋～ H29 夏)		第 3 回 (H29 秋～ H30 夏)		第 4 回 (H30 秋～ H31/R1 夏)		第 5 回 (R1 秋～R2 夏)		第 6 回 (R2 秋～R3 夏)	
		東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島
1	ハシビロガモ												○
2	オカヨシガモ				○		○		○	○			
3	ヒドリガモ									○	○		
4	カルガモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
5	マガモ		○	○	○		○	○	○				
6	オナガガモ				○	○	○			○			
7	コガモ							○					
8	ホシハジロ						○	○		○	○	○	
9	キンクロハジロ										○		
10	スズガモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
11	ホオジロガモ												
12	ウミアイサ		○					○	○	○			○
13	カッコウ科の一種											○	
14	キジバト	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
15	オオバン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
16	カイツブリ												
17	カンムリカイツブリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
18	ミミカイツブリ			○								○	
19	ハジロカイツブリ	○	○	○	○				○	○	○	○	○
20	コチドリ	○	○		○	○	○			○	○	○	
21	チュウシャクシギ												
22	キョウジョシギ					○	○						
23	ヤマシギ												●
24	タシギ								○				
25	イソシギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
26	キアシシギ									○			
27	ユリカモメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
28	ウミネコ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
29	カモメ	○	○			○							
30	セグロカモメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
31	オオセグロカモメ	○	○	○	○	○	○					○	
32	コアジサシ	○	○	○	○	○	○		○				
33	ウミウ												
34	カワウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
35	ゴイサギ					○							
36	ササゴイ		○										
37	アオサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
38	ダイサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
39	チュウサギ									○			
40	コサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
41	ミサゴ	○		○			○		○		○	○	
42	ハチクマ	○											
43	ハイタカ		○		○					○			
44	オオタカ	○		○	○	○	○		○		●	○	●

表 12 (2) 鳥類確認種目録 (第 1 回～第 6 回)

No.	種名	調査時期											
		第 1 回 (H27 夏～ H28 春)		第 2 回 (H28 秋～ H29 夏)		第 3 回 (H29 秋～ H30 夏)		第 4 回 (H30 秋～ H31/R1 夏)		第 5 回 (R1 秋～R2 夏)		第 6 回 (R2 秋～R3 夏)	
		東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島
45	トビ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
46	サシバ												
47	ノスリ		○	○	○	○		○		○		○	○
48	オオコノハズク												
49	コミミズク												
50	カワセミ			○			○			○		○	
51	アカゲラ												
52	チョウゲンボウ		○				○	○					
53	ハヤブサ			○	○	○	○	○	○				
54	モズ			○	○	○	○	○	○	○	○		
55	カケス				○								
56	オナガ			○	○	○	○			○			
57	ハシブトガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
58	ヤマガラ												○
59	シジュウカラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
60	ヒバリ						○						
61	ヒヨドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
62	ツバメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
63	ウグイス	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○
64	オオムシクイ								○				○
65	オオヨシキリ			○		○				○	○	○	
66	メジロ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
67	ムクドリ	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○
68	コムクドリ				○	○							
69	シロハラ	○	○	○	○						●		○
70	アカハラ	○			○			○			○		
71	ツグミ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
72	キビタキ	○				○							
73	ジョウビタキ	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
74	イソヒヨドリ	○	○		○		○		○		○		○
75	スズメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
76	キセキレイ			○									
77	ハクセキレイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
78	セグロセキレイ				○								○
79	タヒバリ						○				○		
80	シメ							○				○	
81	カララヒワ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
82	ホオジロ	○		○	○			○		○			
83	アオジ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
84	オオジュリン			○						○			
85	カララバト(ドバト)	○	○					○			○	○	○
合計	85 種	41 種	40 種	44 種	47 種	42 種	45 種	38 種	38 種	44 種	41 種	40 種	38 種
		47 種		53 種		51 種		47 種		52 種		48 種	

表 12 (3) 鳥類確認種目録 (第 7 回～第 11 回)

No.	種名	調査時期									
		第 7 回 (R3 秋～R4 夏)		第 8 回 (R4 秋～R5 夏)		第 9 回 (R5 秋～R6 夏)		第 10 回 (R6 秋～R7 夏)		第 11 回 (R7 秋～R8 夏)	
		東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島
1	ハシビロガモ	○	○								
2	オカヨシガモ										
3	ヒドリガモ		○				○				○
4	カルガモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
5	マガモ										○
6	オナガガモ	○									
7	コガモ	○				○	○	○	○	○	○
8	ホシハジロ		○	○	○	○		○		○	○
9	キンクロハジロ										
10	スズガモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
11	ホオジロガモ	○									
12	ウミアイサ	○		○	○	○	○	○	○		○
13	カッコウ科の一種										
14	キジバト	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
15	オオバン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
16	カイツブリ			○		○		○			
17	カンムリカイツブリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
18	ミミカイツブリ										
19	ハジロカイツブリ	○	○	○	○	○		○			
20	コチドリ	○	○	○	○	○	○	○	○		
21	チュウシャクシギ		○				○				
22	キョウジョシギ		○				○				
23	ヤマシギ										
24	タシギ										
25	イソシギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
26	キアシシギ										
27	ユリカモメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
28	ウミネコ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
29	カモメ										
30	セグロカモメ	○	○	○	○		○	○	○	○	○
31	オオセグロカモメ	○	○								
32	コアジサシ										
33	ウミウ								○	○	
34	カワウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
35	ゴイサギ										
36	ササゴイ										
37	アオサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
38	ダイサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
39	チュウサギ										
40	コサギ	○	○	○	○	○	○	○	○		
41	ミサゴ							○		○	○
42	ハチクマ										
43	ハイタカ					○					
44	オオタカ		●		○	○	○	○		○	○

表 12 (4) 鳥類確認種目録 (第 7 回～第 11 回)

No.	種名	調査時期									
		第 7 回 (R3 秋～R4 夏)		第 8 回 (R4 秋～R5 夏)		第 9 回 (R5 秋～R6 夏)		第 10 回 (R6 秋～R7 夏)		第 11 回 (R7 秋～R8 夏)	
		東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島
45	トビ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
46	サシバ								○		
47	ノスリ	○	○		○	○	○	○		○	
48	オオコノハズク		●								
49	コミミズク										●
50	カワセミ	○							○		
51	アカゲラ										○
52	チョウゲンボウ				○						
53	ハヤブサ		○				○		○		
54	モズ	○								○	
55	カケス					○					
56	オナガ										
57	ハシブトガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
58	ヤマガラ										
59	シジュウカラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
60	ヒバリ										
61	ヒヨドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
62	ツバメ	○	○	○	○	○	○	○	○		
63	ウグイス	○	○		○				○		
64	オオムシクイ										
65	オオヨシキリ					○					
66	メジロ	○	○	○	○	○			○		
67	ムクドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●
68	コムクドリ										
69	シロハラ	○	○		○		●				
70	アカハラ				●		○				
71	ツグミ	○		○	○	○	○	○	○	○	○
72	キビタキ								○		○
73	ジョウビタキ	○	○		○	○	○	○	○	○	●
74	イソヒヨドリ	○	○	○	○		○	○			
75	スズメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
76	キセキレイ							○			
77	ハクセキレイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
78	セグロセキレイ										
79	タヒバリ							○	○	○	○
80	シメ										
81	カラヒト	○	○	○	○	○	○	○	○		○
82	ホオジロ			○							
83	アオジ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
84	オオジュリン										
85	カラバト(ドバト)	○	○	○	○	○	○				
合計	85 種	41 種	41 種	33 種	38 種	37 種	38 種	37 種	36 種	30 種	32 種
		48 種		40 種		45 種		44 種		37 種	

注 1. ●: 自動撮影カメラのみで確認された種を示す。



マガモ



コガモ



ホシハジロ(重要種)



スズガモ(重要種)



ウミアイサ(重要種)



キジバト

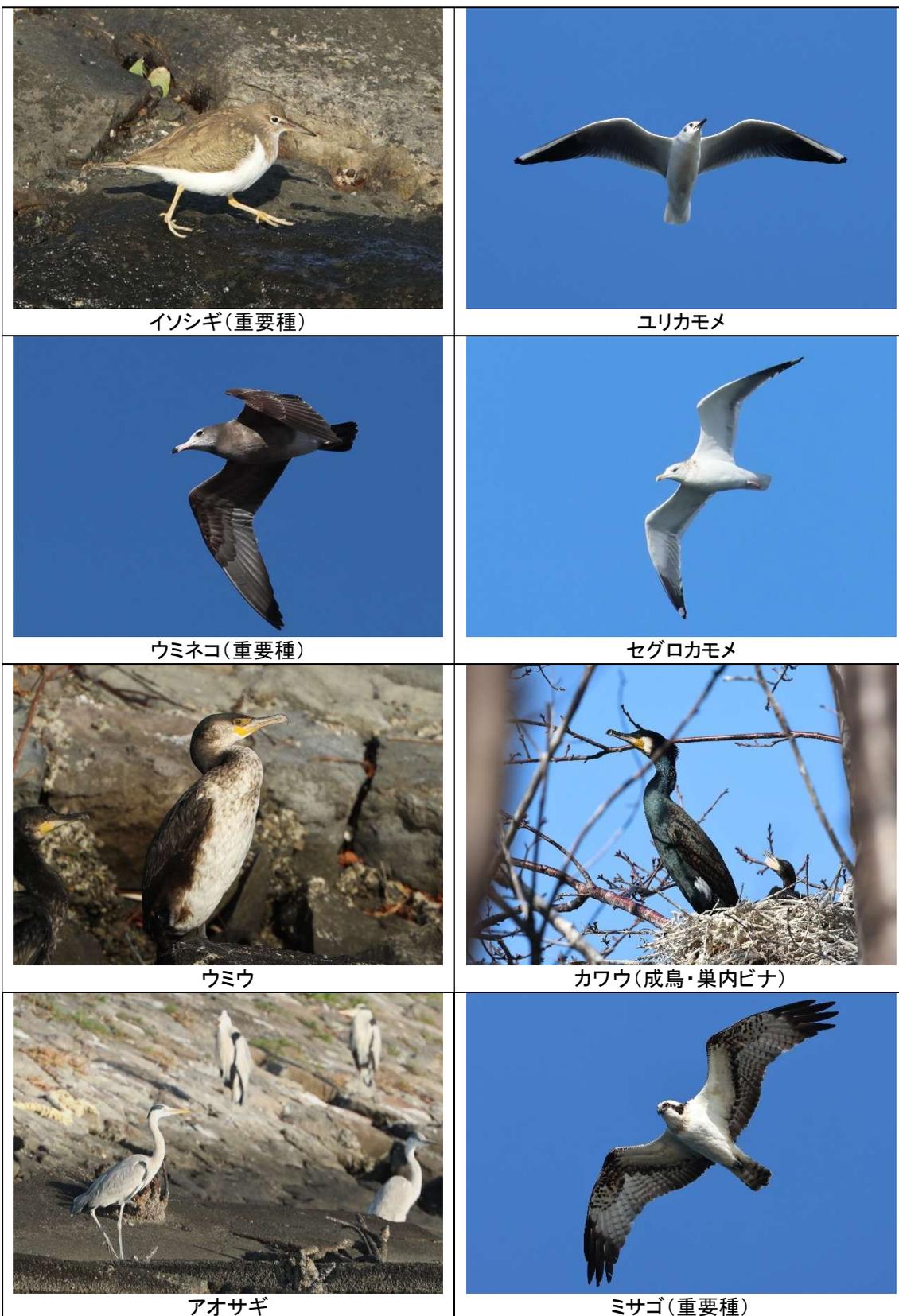


オオバン(重要種)



カンムリカイツブリ(重要種)

写真 2 (1) 確認された主な鳥類



写真(2) 確認された主な鳥類



写真 (3) 確認された主な鳥類



写真 3 (1) 自動撮影カメラで確認された生き物

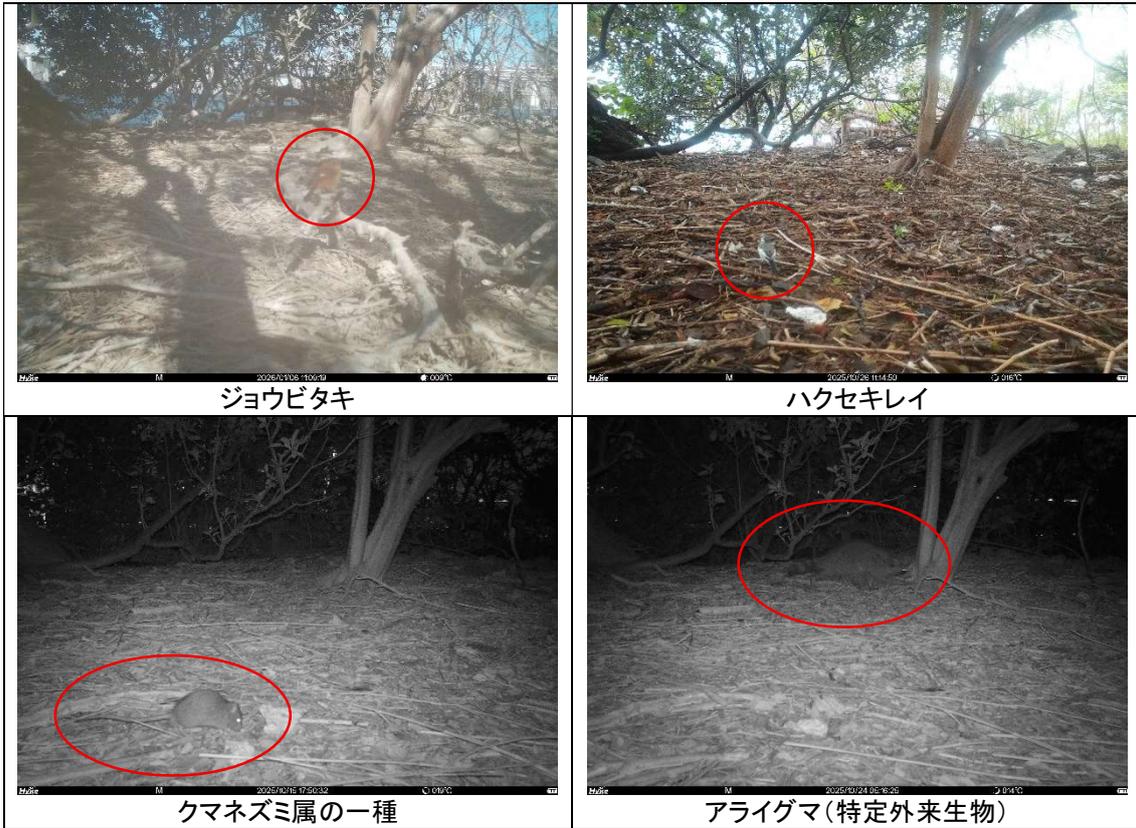


写真3(2) 自動撮影カメラで確認された生き物